

Number 08

演劇の楽しさが 身近にあるまちへ

暮らしに彩りを与える、まちの劇団



桑名を拠点にする市民劇団は現在2つあります。都会に行かなくても地元で演劇が見られ、出演できることで、まちに劇場ができて、人々の輪も生まれます。



劇団すがお

住/森忠1058
☎/090-8159-4497(加藤)
<http://gekidan-sugao.org/>

桑名最古の市民劇団、 「劇団すがお」

昭和36年、桑名高校演劇部OBを中心に創立した「劇団すがお」は、県下20余りの市民劇団中、2番目に歴史のある劇団で今年60周年を迎えます。これまで桑名市を拠点に行った定期公演は93回、依頼公演なども含めると上演回数は500回を超えました。年2、3回は桑名市内で公演を行っており、桑名の歴史など地域の題材を多く取り入れてきました。特に一般市民から公募で役者を募り、一つの芝居を作り上げる「桑名演劇塾」では、桑名の知られざる歴史を掘



①昭和37年、益世小学校講堂での旗揚げ公演「雪女風土記」。②劇団すがおの加藤武夫代表(中央)。③桑名が題材の演劇を数多く演じてきました。多度上げ馬神事の復興を題材にした桑名演劇塾の平成23年公演「馬と千代吉」。④桑名空襲の劇では、演劇内で実際の体験談が朗読されるシーンをはさみます。

Pick up!

桑名空襲の演劇のために集めた市民体験談を、これまでに2巻 自費出版してきました



り起こし、これまで10作品が誕生しました。宝曆治水、萬古焼、多度上げ馬神事、赤須賀舟など古今さまざまなテーマを扱います。

中でも市民の体験談をもとにした桑名空襲の朗読劇は、内容を変えて長年続いています。劇団すがおの代表・加藤武夫たけおさんは、観客の反応の大きさから、桑名空襲を語り継ぐ必要性を感じています。

「昭和20年7月の桑名空襲では2日間で657人が犠牲になりました。全国の被害から見れば埋もれる数ですが、桑名にとっ

ては大きなことです。体験者に取材すると、皆『聞いてもらえてほっとした』『二度と経験したくない。語り継いでほしい』と、戦争の悲惨さを後世に伝えたいという思いを感じます。演じる役者の中で空襲を体験した者はいませんが、演劇に体験記を織り交ぜるので、観客が感情移入し、自分ごととして受け止めやすくなっています」と加藤代表。

体験談をまとめた本は、1巻目が完売する反響の大きさを、今年続巻を出しました。



時に衣装は映画会社から借り、元歌舞伎役者に演出を頼むなど、本格派。平成16年公演「巷説桑名萬古焼」。

アマチュアで続ける 原動力

劇団員は普段別の仕事をし、週2〜3回夜に稽古場へ集まります。「都会では才能があっても舞台に立てる人は少ない。桑名でなら舞台上で、仕事も続けられます。でもうちの演出家は演技の質に厳しいので、年長の団員でも稽古で悔し涙を流すことがあります。年

齢も職業も超えて良い舞台を作り上げたときの感動は、一体感を生み、みんなを家族のようにします」と加藤代表。

旧・員弁郡で昭和47年から15年間小学校巡回公演を続けました。それを見て育った劇団員の篠原史紀ふみのりさんは「こんな劇団は珍しいですよ。アマチュアなのに約60年間続き、依頼されて九州や海外で公演をする。県下初の専用稽古場兼劇場を作る。お金がないからといって安く作るのではなく、いいものを作るためのアイデアと原動力がすごい。鹿児島公演では『スポンサー費は出せなくても自社商品は提供できる』という桑名の企業を募り、鹿児島の会場で『桑名物産展』を開いて桑名のPRまで兼ねました」と話します。

解散する同世代の劇団も多いなか、長年活動を続け、桑名に演劇文化を浸透させています。



15年続いた、員弁郡の小学校巡回公演。

平成17年の公演では北勢線が題材になり、舞台上に黄色い電車が現れました。



平成30年の3劇団合同芝居では国重要文化財の六華苑がミステリーの舞台に。

▶ 劇団すがお 公演予定

「水郷燃ゆ

—長島一向一揆の闘い—

12月5日(土) 午後6時開演

6日(日) 午後1時開演

場所：大山田コミュニティプラザ

チケット前売り

一般2,000円、シニア1,500円、

中高生500円

▷当日券は各チケットの+300円

▷9月下旬から販売予定

稽古場に並ぶ、劇団すがおの正劇団員8人。ほか準劇団員約10人が在籍しています。



日常に演劇を。

「演劇集団Cブレンド」

桑名を拠点とするもう一つの劇団は、「演劇集団Cブレンド」。北勢地区で公演を行っています。高校演劇のOBで平成19年に結成しました。クセのあるキャストたちに温かな親近感を覚える「日常密着ファンタジー」が作風です。年に2〜8回の公演や、子育て支援センターでの読み聞かせを月1回行っています。劇団員は会社員・学生・主婦など20〜30代。「若い世代にも演劇を気軽に見てほしい」と、設立当初から高校生以下500円、公



空家をまるごと舞台空間とし女性用シェアハウスに見立てた公演。

演によっては100円や、未就学児無料で見られる「ワンコイン演劇プロジェクト」を行ってきました。主宰の相原千景^{ちかかげ}さんは「500円で観られる芝居を作るなんて安っぽく思われそうですが、ワンコイン弁当に満腹感があるように、あえてそこに価値を見いだしたいんです」と語ります。演技に向き合うなか、役者それぞれが自分でも気づかなかった人間性を表現し、それが観客に愛されたときには、言いたいような充足感に満たされるところも言います。

上演場所はホールのほか、会議室、民家、お寺、六華苑など、観客と役者の距離が近い会場も多数。乳幼児連れで見られる公演もあります。「地域に根ざし、愛される劇団でありたい。初めての人にも、古い友人のように親しんでもらえたらうれしいです」と相原さんは話します。



演劇集団Cブレンド

<http://c-blend.net/>
mail info@c-blend.net
Instagram @drm_g_c_blend
twitter @cblend_tw



演劇集団Cブレンド次回公演「乙姫様の憂鬱」の一場面



劇団すがお、演劇集団Cブレンド、劇団員弁川^{いながわ}の合同公演は、六華苑の雰囲気も相まって大好評でした。

▶ Cブレンド 公演予定

時代物コメディ「乙姫様の憂鬱」
10月上旬、桑名市内で上演予定

この記事に関するお問い合わせは、
秘書広報課へ
(TEL 24-1492 FAX 24-1119)



上・左/ライブハウスやお寺の本堂など、さまざまな場所が舞台となります。